

CODE : A402252

TYPE : PM-SPF

## 《警告表示》

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分で表示しています。これらを守らないと事故につながったりケガをしたり製品が壊れるなどの恐れがあります。



この表示の欄は取扱いを誤った場合、使用者が「死亡または重傷を負う可能性が懸念される」内容です。



この表示の欄は取扱いを誤った場合、使用者が「傷害を負ったり、物的損害を負う可能性が想定される」内容です。



お客様の安全のために、ご使用になる前は必ずこの説明書をお読みください。読まれた後は大切に保管してください。

ポンプの改造、分解、ペイントは絶対にしないでください。ポンプに穴をあけたり、削ったり、改造したりすると非常に危険です。また塗料や熱の影響により材質が侵され性能が低下するおそれがありますので、絶対にしないでください。

- ◆使用前に次の点検をしてください。
1. 握り(グリップ)やフットステップに亀裂や変形がないこと。
  2. シリンダ本体とシリンダキャップとの固定が確実に、緩みがないこと。
  3. シリンダ本体と台座の固定が確実に、緩みがないこと。

◆損傷、変形や緩みがある状態では使用しないで販売店にご相談ください。空気を入れる力を加えた時にポンプが破損し、ケガをするおそれがあります。

◆シリンダキャップや握り(グリップ)を外したり、分解しないでください。使用中に破損するおそれがあります。

◆ご使用は平らな場所で行ってください。

◆操作力が大きくなってもタイヤに空気が入らない場合、ポンプ内が高圧になって破裂等の危険があるので、無理に空気を入れないでください。このような場合は、販売店に相談してください。

◆直射日光が当たる場所に放置したり、雨ざらしにしないでください。劣化しやすくなります。

◆圧力ゲージや圧力調整弁はポンプ内の圧力の目安を示すものであり、また故障時には、タイヤに過大な空気圧が充填されることもあるので、タイヤの空気圧についてはタイヤを押して再確認してください。



このポンプはパッキンなど部品の交換や分解はできません。

## 《取扱説明書》

## 【1】バルブの種類

このポンプは以下のバルブに対応できます。



図1

## 【2】ホースの固定方法

ポンプ下のホースフックに引っかけてから、口金ホルダーで口金下部を固定してください。(図2)

## ○各部の名称

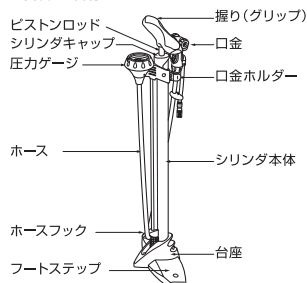


図2

## ○口金部の名称

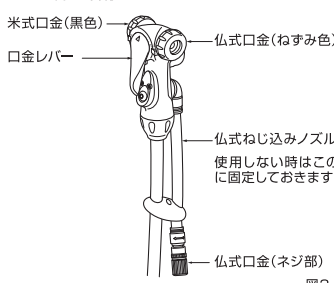


図3

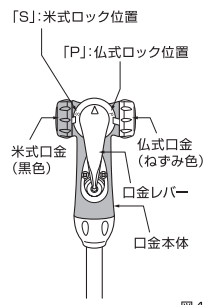


図4

## 【3】空気の入方

※タイヤ・チューブのバルブの準備は、各種バルブの使い方をよくご覧ください。

## ◆仏式バルブの場合

要点 仏式ねじ込みノズルを下げおかないと、仏式口金に空気がとおりません。(図3)

- 1 タイヤ・チューブの仏式バルブの準備(コア引き上げネジを2〜3回転ゆるめて、先端を瞬間押し、わずかに空気を抜く)をしておきます。(図5)



図5

- 2 ポンプの口金レバーが中央の位置にあることを確認します。(図6)

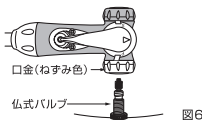


図6

- 3 ポンプの口金(ねずみ色)をタイヤ・チューブのバルブにしっかりと差込みます。(図7)

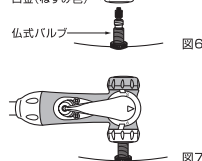


図7

- 4 口金レバーを「P」の位置に倒します。(図8) (内部のパッキンが閉じます)

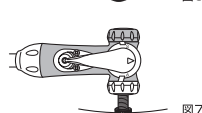


図8

レバー操作は力が必要なので、口金本体をしっかりと保持して操作してください。バルブに無理な力がかかると破損するおそれがあります。

- 5 口金とバルブがしっかりと接続されていることを確認し、空気を入れます。

- 6 空気を入れ終わったら、レバーを中央の位置にもどします。(図7) (内部のパッキンが開きます)



図9

- 7 バルブから口金を外します。(図6)

レバーを中央の位置に戻さずに口金を外すと、内部のパッキンが磨耗して傷み、しっかりと固定できなくなります。

注意

## ◆米式バルブの場合

要点 仏式ねじ込みノズルを下げおかないと、米式口金に空気がとおりません。(図3)

- 1 口金レバーが中央の位置にあることを確認します。(図9)
- 2 口金(黒色)をタイヤ・チューブのバルブにしっかりと差込みます。(図10)
- 3 口金レバーを「S」の位置に倒します。(図11) (内部のパッキンが閉じます)

注意 レバー操作は力が必要なので、口金本体をしっかりと保持して操作してください。バルブに無理な力がかかると破損するおそれがあります。

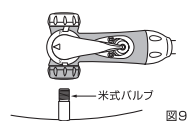


図9

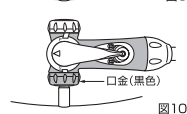


図10

- 4 口金とバルブがしっかりと接続されていることを確認し、空気を入れます。
- 5 空気を入れ終わったら、レバーを中央の位置に戻します。(図10) (内部のパッキンが開きます)

- 6 バルブから口金を外します。(図9)
- 注意 レバーを中央の位置に戻さずに口金を外すと、内部のパッキンが磨耗して傷み、しっかりと固定できなくなります。

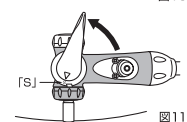


図11

## ◆仏式ねじ込みノズルを使う場合

- 1 仏式ねじ込みホースをたて、フックに固定します。(図12)

要点 ホースをたてないと、ホースに空気が通ります。

- 2 口金先端のネジ部をタイヤ・チューブのバルブにネジ込み、しっかりと接続します。(図13、14)

- 3 空気を入れます。

- 4 空気を入れ終わったら、口金先端のネジ部をゆるめ、バルブから口金を外します。

注意 ネジ部をゆるめずにバルブから外すと、バルブまたは口金破損するおそれがあります。

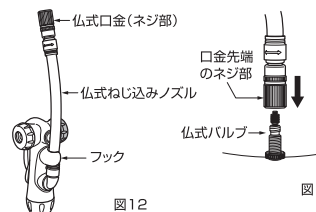


図12

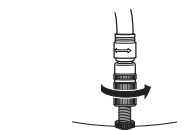


図13



図14

販売元 フリヂストーンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3丁目1-1

お客様相談室 受付時間: 9:00~12:00/13:00~17:00  
(土・日・祝日及び弊社指定休日は休み)

フリーダイヤル: ☎ 0120-72-1911

(携帯電話・国際電話・インターネット電話  
でのご利用はできません)